

(4) 自立・一体的な活力ある地域

8世紀の律令国家時代に配置された9つの国分寺を引継ぐ藩、そして県の歴史にみられるように、昔から「九州はひとつひとつ」分かれて発展してきたが、交通網が飛躍的に整備されてきた現在では、日常の生活活動や民間経済活動など、行政区域の枠を超えて展開されている。

すでに九州内の基幹都市間は1日行動圏となりつつあるが、九州新幹線の整備、高度情報通信基盤の整備などにより、さらなる時間・距離の短縮が期待される。

このような社会資本を活かしながら、地域間の連携と交流により産業、観光、文化等、さまざまな分野で九州の可能性を高め、九州全体の発展を図る。

特に産業面では、農林水産業からナノテクノロジーなど研究開発型・知識集約型の新時代のリーディング産業まで、あらゆる産業において、どこよりも高品質な先端的製品を製造できるようたくましい産業の創造を支援する。

そのため、これまでの中央指向を脱却し、地域自らが新たな発想を生み出し、九州が一体となって育てていける、チャレンジ精神にあふれてのびのびと活動できる地域を目指す。



写真 東九州自動車道・宮河内インターチェンジ